

町の文化財・史跡を調査 ～第二小学校区～

目的：須恵町の文化財・史跡などを調査し、まちづくりに活かしていく。

須恵区

江戸時代初め、粕屋の地に眼科の医術を伝えた高場順世氏の流れをくむ岡家。田原家（上須恵区）とともに福岡藩の御典医として活躍し、幕末には長崎に留学した記録も残っているそうです。この岡家の長屋門は、宝満宮の裏側に位置し、門の横にはきれいな白壁が続いています。



当時の姿を残す岡家の長屋門

応徳2年（1085年）に建てられた歴史深い神社です。奉納相撲や盆綱引きが行われています。



宝満山のながれをくむ宝満宮

甲植木区

かつて岳城の山頂にあった高鳥居城。城主の若君と乳母が、戦に敗れ地元の道林寺に落ち延びる途中、子の泣き声で見つかり、首をはねられたという悲話が残っています。この物語は、町の無形民俗文化財に指定されており、この乳母の霊を守母様として祀っています。毎年4月には、大祭が開催されています。



夜泣き止めや育児の神様として信仰される守母神社

近くには、約700年前に開かれた道林寺や、高鳥居城主であった杉氏のお墓とされる中世のお墓があります。



甲植木区の氏神様である若八幡宮

乙植木区

江戸時代、乙植木には本合村がありました。「もったい」は「もたひ（酒を入れる容器）」が訛ったものとする説があります。ちなみに、すぐ隣には粕屋町酒殿がありますが、大宰府天満宮にお酒を献上したと伝わっているそうです。



由来を知っていますか？

九州自動車道などの建設にあたり、8基の古墳が発掘調査され、隣接する牛ガ熊遺跡からは古墳時代の竪穴住居などが見つかりました。玉製品の工房跡であると考えられています。



古墳から出土した銅鏡など（町立歴史民俗資料館）

0歳～18歳の子どもと家族の支援

須恵町も年々子どもが発達障害が増えている中で、志免町に「こども発達センター」ができていて、聞き、視察しました。

センターの目的

乳幼児から就学後（小学校・中学校・高校）と、一人ひとりの年齢・成長に合わせた、きめ細やかで途切れない支援を行い、地域の中で暮らしていくための力、生き生きする力、よりよい人生設計のための未来の根っこづくりをすることを目的としています。

利用時間

支援には、乳幼児発達支援と学童期発達支援の2つがあります。

利用時間

乳幼児発達支援 月～金 9時10分～16時

学童期発達支援 学校が終わってから18時まで

場所 ゆずのキテラス 志免町志免4-22-11

連絡先 957-7150



子ども支援の大切さを知る

その他にも、子どもの発達に心配のある家族の相談を受けて、必要な情報を提供しサポートをしていきます。



遊戯室を見学

現状

利用者数は、志免町約60人、宇美町1人、須恵町4人です。小学生が多く、特に男の子が多いそうです。

利用するには、役場での受給者証の発行が必要で、料金は、「幼児教育・保育の無償化」にともない3～5歳児クラスは無料で、それ以外の年齢の利用者は1割負担です。

できれば早い段階で子どもの個性や必要なサポートを知り、その後、各町の療育施設などで成長に合わせた支援を受けられることが望ましいとのことでした。

調査を終えて

須恵町は、小学生以上の療育活動は盛んです。できれば学校に上がる前から、専門スタッフに関わってもらい、このような施設を親子で利用していくことができれば、子どもの成長力がより引き出せると思います。

このような施設があることを、皆さんにもぜひ知っていただきたいと思えます。



個別学習スペースを体験